

アンドレア・ケント

J P N 2 0 2

作文三

私は大学で教育を勉強しているので日本の中学生の話しを勉強していた時日本の教育にきょうみを持ちました。話によると高校に入るために中学三年生はたくさん勉強してしけんをうけます。その受験は高校によって試験の難しさもかわります。そうすると成績が良くない生徒はあまりきびしくないこうこうで受験します。きびしい高校に入りたい生徒はたくさんむずかしべんきょうをして塾にもいくことがあります。じゅくはたかくて大変ですがいい高校に入るといい大学にいけていい仕事ができると思うので日本の中学生はがんばります。生徒にはたくさんストレスがあつてあまり自由がないそうです。それはわるいところでも日本の生徒はいつも世界の成績ランキングに上にいます。

日本と違って、アメリカでは高校にはいるのは問題がありません。アメリカの中学生はあまり難しいべんきょうをしないので日本の生徒みたいじゃありません。でも、成績が良くない生徒でも大学に入られることはアメリカの教育のいいところだと思います。アメリカの大学で卒業するのはむずかしいです。悪いせいせきをとって大学をやめるがくせいがたくさんいます。だから中学と高校は日本に比べてきびしくないのに大学はきびしいところはアメリカの教育のわるいところだと思います。

アメリカは生徒のみんなに大学をそつぎょうさせたりいいしごとにつけさせたりしたかったらどうして中学生と高校生をじゅんびしないのでしょうか。教育のクラスではその質問をよく聞かれます。アメリカの教育は日本のみたいになるほうがいいのかどうかも聞きます。私はりょうほうにいいところとあまり良くないところがあると思うですが、研究によるとアメリカは少し日本みたいにかわれば公立学校はよくなります。日本も少しかわるともっとよくなるかもしれません。